

「小浅間山登山(2/最終回)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北アルプスや八ヶ岳、或いは谷川山系の縦走には、最低でも1泊、長い縦走路なら3泊も4泊も山小屋かテント泊を繰り返す必要があります。その分、あらゆる時間帯、高度、地勢などのさまざまな景観に出会うことができます。そのような縦走登山は、文学作品に例えれば「壮大なる長編小説」と言えるでしょう。



一方の小浅間山は、駐車場から短時間で往復可能で、樹林帯から砂礫地、そして山頂付近ではアルペン的景観を堪能できる山です。言わば、山旅の魅力をコンパクトに凝縮した山です。文学作品に例えれば「短編小説の傑作」という表現が最も当たっています。



実は2009年までは、山頂に「小浅間山山頂」を示す、いわゆる「山頂標」がありませんでした。そこで私は手作りの標識を設置しました。この標識はその後7~8年は持ちこたえていました。そのことは、小浅間山に上った登山者のブログやWebページで確認していました。しかし木製だったので、毎年の風雨、雪、

それに落雷などにさらされて、いつか姿を消していました。そのかわりに、結構立派な山頂標が設置されていたのですが、これも木製で数年の風雨で文字がかすれていたのです。しかも標高表示がありませんでした。



そこで今回は、3Dプリンターで自作した山頂標を持参、設置してきました。標高(正確には三角点標高)も記載しています。この素材は「生分解性プラスチック」なのですが、まあ5~6年は持つでしょう。



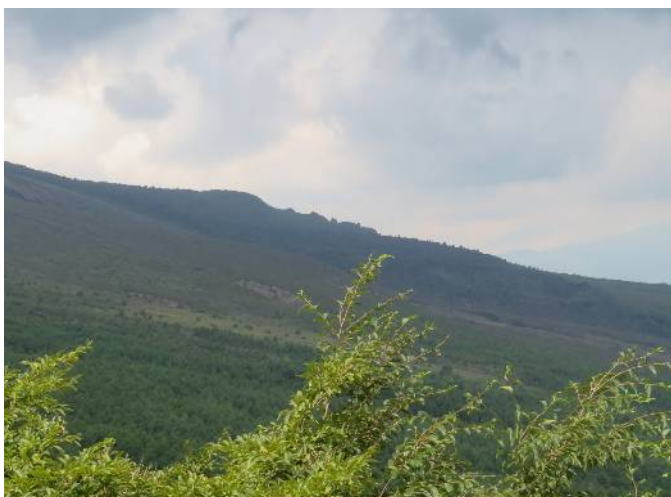
この日は天気もシーイング(大気の状態)も今一つだったのですが、軽井沢市街地、離山(はなれやま)、妙義山、浅間隠山(あさまかくしやま)、鼻曲山(はなまがりやま)、一の字山などが見えました。



実は小浅間山には2つの峰があります。先に登った主峰が「東峰」、そこから見えるもう一つの副峰が「西峰」です。東峰から西峰までは15分ぐらいなので、もちろん寄り道しました。



西峰からは、浅間山本体が何の遮蔽物もなく、眼前に迫ります。まさに「浅間の展望台」ですね。



浅間山山頂火口壁を越えて、北麓にくだる「舞台溶岩流」が見えました。



この日は雲が多く、期待していた四阿山（あずまや

さん）や本白根山（もとしらねさん）はよく見えませんでした。眼下に見える建物は、「浅間・白根火山ルート」という有料道路にあるドライブインです。



西峰からは、さきほど山頂に立った東峰（主峰）が見えます。山頂の人もよく見え、たぶん大声で叫べば声が聞こえる距離でしょう。正確な直線距離データとレーザーポインターがあれば、音の伝達速度測定の実験ができるでしょう。



帰りは、正規のルートでも良いのですが、適当な斜面を「直滑降」で進めます。富士山ほどの規模ではないですが、いわゆる「砂走り」という下山方法です。なかなかスリルがあって楽しかったです。

【小浅間山の登山データ】

- ・時間；1時間25分（山頂での休憩含まず）
（登山約40分、東峰～西峰約15分、下山約30分）
- ・累積標高差；約300m
- ・装備；軽登山靴、リュック、スポーツドリンク2本、レーション（行動食）、カメラ、山頂標、電動ドリル、タオル、麻生さん帽子